

『グリーン・マーズ』下巻のあらすじ

takaidos

下巻メモ

本-グリーン・マーズ 下巻 2016-04-13~04-22

キム・スタンレー・ロビンソン

大島豊・訳。

①著者は『知識や描写の百貨店のようなSF作家』。

火星の地形や開拓の様子など細く描写されているので流し読みするのはもったいない。

地図を描きながら読みたい。あるいは、著者のイメージした地図や挿絵もほしい。

また繰り返して読み返して著者の意味するところをより深めたいと思う部分もある。

②しかしそれが災いしてときどき読んでいて頭に入って来なくなる時がある。

思想、心理、政治・経済、地形描写など、一回読んだだけでは頭にはまりにくいことが多々ある。

迂回して文学的表現、考察、登場人物同士の訳知りにだけ分かるような表現や会話を多く挟んで、ストーリーをまっすぐに分かりやすく進めないこともある。

議論したとか討論した、反応はどうだった、と会話の雰囲気だけ描写され具体的な内容が描かれていないことがある。イメージだけ。あらすじを読んでいるような部分が目立つ。

③資本主義の超巨大グローバル企業と形骸化された国連に疑問を抱き、エコを中心に新たな経済、新たな価値観を追求している。

しかし火星で使用される貨幣について具体的な記述はない。

④日本人に神秘性を感じ、アラブ人に道の探求者を感じている。

しかしヒロコはいわゆるカルト教団の教祖と思う。日本本国の天皇制のことは一切触れられず。

⑤人間ドラマとしては面白くない。

特に老人の性の描写についてはつまらない。

地球を発つ前に放射線被曝量が増えても修復する措置のひとつとして、若いクルーが長寿治療を既に受けた、というストーリーのがまだ良かったのではないか。

それであれば男女の恋愛話や嫉妬話など通りやすかったかと思うが、実年齢70~150歳の人たちなので精神的な年齢という面では依然として感情移入しがたい。

長期間に渡る流れを追うのであれば思い切って世代交代で話を親子孫、曾孫と繋いでいくか、アンドロイドを登場させるかなどした方が良かったように思う。

⑥全編を通して、大きな筋書きは、グリーンズ(緩やかな惑星緑化と地球企業による強引な環境改

変がある)vsレッズ(火星環境温存)、火星独立革命派vs地球穏健派、全面戦争・暴力革命vsクーデター。

たとえば『レッド・マーズ』では宇宙エレベーターを落としてしまうが、多くの犠牲者を出すことになるテロを実行に移す動機と経緯が伝わって来ない。

「トランス・ナショナルが地球からどんどん人を運んで来て治安が悪くなった」という概要は説明されていたが、最初の百人以来、移民して来た人たちがテロや戦争をやむを得ないと決断する理由が浮かばない。

⑦こういう環境、条件下であれば、こういう流れになるだろうと俯瞰的に、道具立てもたくさん揃えて話を作って進めているので、話は拡がって、火星ものでは最初の実感的な近未来創作ものとなっている。

その一方で、大規模な建設・工事や環境改変が狭い実験室の中のようにいとも簡単に進む。

披露する知識の間の、ストーリーが冗長だったりしみじみと来るような内容だったりしない。間奏とか演出が上手くない。生活上もっと身近でいろいろ初めての体験があるがあるはずだがそれが無い。

マンガ「宇宙兄弟」のような日常、心情描写がない。

エンターテインメント★

冒険度★★★★

科学的★★★

社会科学★★★★★

ファンタジー☆

PART 1 Areoformation

PART 2 The Ambassador

PART 3 Long Runout

PART 4 The Scientist as Hero

PART 5 Homeless

PART 6 Tariqat

PART 7 What Is to Be Done?

PART 8 Social Engineering

PART 9 The Spur of the Moment

PART 10 Phase Change

<目次>

上巻

第一部 火星化効果

第二部 大使

第三部 長い逃亡

第四部 科学者、英雄に

第五部 宿無し

第六部 タリクワート

下巻

第六部 タリクワート(承前)

第七部 何をなすべきか

第八部 社会工学

第九部 もののほずみ

第十部 位相転移

解説 大野万紀

<登場人物>

★ニルガル:コヨーテとヒロコの息子。三世。自由火星党グループが支持。

ジャッキイ:ジョン・ブーンの孫。カセイの娘。

★アート:プレクシスの外交官。

★ナディア:最初の百人。技術屋。

★コヨーテ(デズモンド・ホーキンス):ヒロコの手引きで火星に来た密航者。

ヒロコ:最初の百人。隠れコロニーの最有力者。

アン・クレオボーン:最初の百人。レッズ。

★サククス:最初の百人。惑星緑化推進者。別名スティーブン・リンドルム?

マヤ・カタリナ・トイトヴナ:最初の百人。明日香ではリュドミラ・ノヴォシビルスカヤ。

スペンサー・ジャクソン:最初の百人。潜入・諜報活動。別名スティーブン・リンドルム?

ヴラド:最初の百人。医療。エコ経済学。

ウルジラ:最初の百人。医療。

マリーナ:最初の百人。医療。エコ経済学。

ミシェル:最初の百人。心理学。

カセイ:ヒロコとジョン・ブーンの息子。ジャッキイの父。マーズ・ファースト代表。

エステル:ジャッキイの母。

レイチェル:ザイゴート生まれの若者。

ティウ:ザイゴート生まれの若者。

フランツ:ザイゴート生まれの若者。ダイアナに恋？

スティーヴ:ザイゴート生まれの若者。

イエーリ・ジュードフ:メアリ・ダンケルの曾々孫。明日香。

アンタル:二世か三世。イスラム以前の叙事詩に出て来る敗北を知らない騎士。

エミリィ:二世か三世。

イヴァナ:レッズかマーズ・ファースト。

ラウール:レッズかマーズ・ファースト。

ジーン:レッズかマーズ・ファースト。

フランク・チャーマーズ:故人。最初の百人。NASAアポロカセイ計画推進。NASA長官。

ジョン・ブーン:故人。最初の百人。NASAアポロカセイ計画推進。火星への宇宙船船長。

アルカディイ・ボグダノフ:故人。最初の百人。2061年の革命のリーダー。

セリム・エル・ヘイル:アラブの青年。アハド派(ナショナリスト)。フランクの手引きでジョンを暗殺。しかし自身とその仲間2人もフランクに暗殺される。⇔フェタ派(汎アラブ)。

アリアドネ:ドルサ・ブレヴィアの若い女性。案内役。

デュール・ナン:スーフィの街の案内人。小男。

老ゼイク:ベドウィンの長老。

ナジク:ゼイクの妻。

アンタル:ベドウィンの青年。

タナ:ニュー・ヴァヌアツのポリネシアンの娘。

シャーロット:ドルサ・プレヴィア出身の憲法学者。

ダイアナ:エスターとピーターの息子ポールの娘。ジャッキの異父兄弟。アン、サイモンの曾孫。第四世代。プレクシスの地質学者。フランツに恋？

中山七生:明日香。

岡倉悦:明日香。

・ スイス人～全体会議のために招かれる。

ユルゲン:銀行員風のグレーのスーツ。

マックス:銀行員風のグレーのスーツ。

ウェルナー:全体会議の開催を宣言する。

シビラ:濃い緑のスーツ。

プリシュカ:濃い緑のスーツ。

・ 暫定統治機構

デレク・ヘイスティングス:代表。元ヒューストン管制官。頭が切れて頑固。

<メタナショナル>IMF、世界銀行、Gイレブン、顧客である国を牛耳る。

顧客になった国の海外債務と国内経済を肩代わりする。国家公務員に高賃金を払う。

ワンダフル:傘下の企業の大半をブラジルに移した。

三菱

コンソリデイティッド:宇宙エレベーターをコロンビアに設置しようとする。

アメックス:G11と不仲になり、資産をフィリピンに移した。北アフリカ諸国、ポルトガル、ヴェネズエラなども。

アームスコー:

マージャリ:中国と取引。プレクシス寄り。

アテネズ:

プラクシス:スリランカ、インド、中国、インドネシア。宇宙エレベーターをエクアドルに設置しようとする。

国連:カンボジアに拠点。

グループ11:旧G7+韓国、アザニア、メキシコ、ロシア。

国際司法裁判所:ハーグ。のちベルンへ移転。

<都市/コロニー>

・都市/UNTA,トランス・ナショナル

ヴァロウズ:火星最大の都市

ヘラス:

シェフィールド:

明日香:最初日本人240人が作った。大学もある。火星の京都のような場所。

蓬萊:最大の?モホールがある。日本人が多い?

アケロン:かつてヴラド、ウルジラの医療施設があった。

アラバスター:ニコルソン・クレーターの南東、メデューサ地溝にある。石膏像メデューサがある。

エリシウム:スーフィのグループもいる。

・コロニー/デミモンド(囲われ者)

エクス・オーヴァルック:サックスがかつて混合気体『ラッセル・カクテル』を作って惑星緑化を始めた場所。

タルシス:ボグダヴィストの医療施設がある。

クリティアナポリス:かつて革命に関わったが国連には居場所を公表している。最大のテント・タウン。交易センター。

ルーミー:スーフィたちの主要居留地。暫定機構からお咎めなし。

・隠れコロニー/地下組織

ザイゴート:南極冠の氷のドーム。意味は接合子。ヒロコたちの元のコロニー。収容数200人。科学装置を作る。母系制。

ガミート:南極冠の氷のドーム。意味は配偶子。ヒロコたちの新しいコロニー。科学装置。

プロメテウス:フランス語。コヨーテ、ニルガルをあたたく迎える。

ドルサ・ブレヴィア:地下組織最大のコロニー。収容数2万人。母系制。古代クレタ文明、北米ホピ族、ヴィリディタス。

ボグダノフ・ビシュアニク:ボグダヴィストが集まる。大型機器・設備を作る。

ニュー・ヴァヌアツ:ポリネシアンが集まる。

オーバーハングス:ニルガル最初の外出で立ち寄る。スイス人・ユルゲンのグループがいる。

マウス・ハイド:新種の植物を栽培する。

グラムシ:

ネオ・マルクシスト:ミッチェル山脈の小さな隠れ里に住む。イタリアのボローニャとインドのケララ州と接触がある。

ボローニャ共産主義者:シュミット・クレーターの南。

<あらすじ>

◆レッド・マーズの歴史。

2020年、火星に初めて人類到達。

2027年、最初の百人、植民者として火星に住み着く。アンダーヒル。

2040年～、国連の名の下に超国籍企業体、テラフォーミング開始。

2050年～、人口急増。

2050年代終わりに、軌道エレベーター完成。人口流入さらに加速。

2061年、火星革命、大崩壊。

反乱側の多くのテントが破壊され軌道エレベーターが落とされ、フォボスも落とされる。

◆グリーン・マーズ

2088年、軌道エレベーター再建。

2091年、火星温暖化のための太陽帆(ソレッタ)完成。惑星緑化を早める。

2101年、超巨大企業プレクシス、火星の地下組織に外交官アートを派遣。

2107年?火星紀元40年、火星地下組織代表がドルサ・ブレヴィアに集結。ドルサ・ブレヴィア宣言をする。

2119年？火星紀元48年、南半球のヘラス盆地、海になる。

2127年、火星紀元52年、火星独立革命。北半球のボリアレス平原、イシディス平原、海となり火星首都バロウズ水没。

【第六部 タリクワート(承前)】

ガミートでアートはヒロコたちに紹介され、見るもの見るものに驚く。

サックスは左前頭葉の会話中枢に問題があって喋れずリハビリが必要と診断された。

アートは火星の地下組織みんなで協力しあうべきと主張する。

ナディアはニルガルとアートをボグダノフ・ヴィシュニアクに連れて行き、最初の百人のひとりミハイル・ヤンゲルに協力を求める。

アートは「表を取り返すこと」と言い。ミハイルは快諾する。

プロメテウスでナディアのローヴァーにジャッキイ・ブーンも加わる。

巨大な隠れコロニー「ドルサ・ブレヴィア」でアドリアナの案内を受ける。

ニルガルは「地下組織の全体会議にはスイス人を入れなければならない」という。

続いてスーフィたちの街を訪問する。ハドリアヌス・パテラに北東。

案内人のデュール・ナンは暫定統治機構からの脅威は感じていないが全体会議には熱狂的だった。

相談相手の順として、ベドウィンやほかのアラブ人たちに早く話をするよう勧められる。

「ミトラ教、ゾロアスター教、太陽神アフラ・マツダを信仰している人たちがソレッタを宗教的芸術・ステンドグラスと崇めている。」

つづいて、ライエル・モホールに行き、ベドウィンたちが置いているキャラバンサライを訪問する。

ベドウィンたちは移動採鉱リグで旅を続けていた。

ベドウィンでは老ゼイク、ナジク、アンタルらと話をする。

老ゼイクはアラブの共同体に伝言する、という。

いまアラブ諸国はアメックスの傘下に入りつつあるので金が絡むという。

つづいてクリスティアナ・ポリス、ボローニャ共産主義者の居留地、ニュー・ヴァヌアツ(ポリネシアン)を訪問する。

コヨーテが以前ロボットで火山を刺激したレイリィ・モホールで黒い雲が上がっていたので、ニルガルとジャッキイは調査に向かい、ナディアとアートはアンに会うため先に戻る。

ニルガルたちがガミートのガレージに到着すると、ガミートは攻撃を受けて壊滅したあとだった

。
攻撃は暫定統治機構のようだった。
ヒロコたちは全員無事だった。
全員でドルサ・ブレヴィアに移動することを決める。

【第七部 何をなすべきか】

ナディア目線。

火星紀元40年のLs180、全体会議のためにドルサ・ブレヴィアに隠れコロニーの代表者たちが集まる。

そして、コロニー内のオープン・ルーム(ザクロス、グルニア、ラト、マリア)で作業部会を開く。スイス人ウェルナーが全体会議の開催を宣言する。

ヒロコが立ち上がって「私たちは地球の子供です」という。

作業部会は「2061年の事件の問題」「惑星緑化問題」など。

ヒロコやサックスたちは惑星緑化はやむを得ないと考えているが、アンたちレッズは反対。

ヒロコたちは無血革命(絹の革命、火星ゲル革命(アレオ・ゲル))、火星浄福を目指す、アンは「敵を皆殺しにして火星独立を果たす」と主張。

若い世代は惑星緑化を帝国主義プロセスの一部、地球化(テラフォーミング)と見ていた。

「火星政府・財政に関する作業部会」。

ヴラドとマリーナにエコ経済学・贈与システムは収支を合わせるのが難しいとして、スイス人やボローニャ人は反対していた。

「希少性」と「蓄積」の問題があるし、基準を作ればそれはみんなに贈与を強制することになる

。そのため、コヨーテは「交換ネットワーク」を組織した。

より合理化されたシステムを考えている。

「基本的な必需品は過酸化水素で調整された経済の形(貨幣にすること)で配布され、物質の値段はそれぞれのカロリー値を計算して付けられる(エネルギー対価による価格設定)。

そして必要量を超えると贈与経済の出番になって窒素を基準に使う。

だから二つの段階がある。

必需品と贈与品、あるいは作業部会のスーフィたちは別の基準で動物経済と人間経済と呼んでたもの」

「権利章典をまとめる作業部会」。

老ゼイクは「ひとつの文化が他の文化を支配するのは、アタチュルク主義である」という。

アリアドネは「しかし集団のひとつが奴隷を所有することは権利のひとつと言い出したら困る」

。

ミハイル(ボグダヴィスト)は「誰しも法の下に平等でなければならない」という。

老ゼイク「階層は天与の事実だ」という。

アリアドネ「平等と自由を第一に置くべき」

アート「地球のいろいろな人権宣言を見て火星用に修正できるか見てみよう」

その他の作業部会。

「土地利用」「財産法」「刑法」「遺産相続」...

コヨーテは「すべて議論すべき、という。最低限国家論者たちは、自分たちの特権をまもってくれる経済体制と警察制度だけは残したいと思っている。」

さらに「遺産相続は全くあるべきでない、すべて火星に戻すべき」と主張する。

マリーナは「それは財政(貯金)に関わる。財政の作業部会では貯金について逆利息を付けることを検討している。だから稼いだものを再利用できるようにしないと、それは窒素として大気中に放出されることになる。

このシステムでは個人的な残高を黒字にしておくのは難しい。

しかし余ったら死亡の際に火星に戻されて公的な目的に使われるべき」

サックス「そのシステムは"人間はすべての動物同様、自分たちの子孫を養うことが強力な行動原理になっているという生命倫理理論"に矛盾している」と抗議した。

コヨーテ「金持ちのエリートを固定化するほどの額でなければ、最低限の遺産相続は認められるべき」

他の作業部会。

「地域区分基準」「エネルギー生産」「廃棄物処理」「輸送システム」「害虫駆除」「財産法」「苦情処理手続き」「刑法—仲裁—衛生基準」。

「極小政治」(マイクロ・ポリティクス)お目指したいが話すべき分野は多かった。

ニルガルは作業部会のまとめを作り、ナディアはフォローした。

若いアラブ人アンタル、ヴラドに「あんたは社会主義者の破局を繰り返すことになる」

ヴラド「当時の社会主義諸国は、外からは資本主義に、内からは腐敗に攻撃されていたので、どんな体制にしても生き延びられなかった。スターリン体制ではいけない。我々はそうならないようにあらゆる方面を探るべき」

全体会議はほぼ一ヶ月続いた。

アートとニルガルは連日のまとめ作業で憔悴する。

シャーロット「アメリカの憲法制定会議は史上最も成功したものの一つだが、始まったときはひ

どく敵対した勢力がたくさんいた。三権分立。権力への不信を制度化。スイスの憲法も同じ」と励ます。

「火星独立後の火星地球関係についての作業部会」。
出席していたレッズやマーズファースト(カセイがリーダー)は過激で暴力革命を辞さない考えだった。

プレクシスのウィリアム・フォートが地球からやって来た。
ワンダフルと偽った明日香の手引きでボグダヴィストも許可を得て入って来たのだ。

フォートの演説。
プラクシスは他のトランス・ナショナルとは違う。
他のトランス・ナショナルは火星でいうと表社会で国連を牛耳っている。
国際的な紛争が国際司法裁判所に持ち込まれるケースが増えて来た。
プレクシスは地下社会で国際司法裁判所支援同盟という組織を創設して裁判所を支援している、と打ち明ける。

環境資本主義でいうと、地球は満杯、火星は空っぽの世界、自然はバイオ・インフラストラクチャー、人びとは人間資本。
トランス・ナショナルより大きくなったメタナショナルという存在は今では国連を隠れ蓑に使っている。
「資本主義は成長があって初めてうまくゆく。しかしもはや成長は成長ではない。我々は内に向かって成長する。もう一度絡み合う必要がある」
市場というのは共同体の中ごく一部。プレクシスは共同体全体を守りたい。

トランス・ナショナルは潰れて20ほどにまとまっている。
そのどれもが一つ以上の国家と契約を結んでいて、今ではメタナショナルと呼ばれている。
かつて発展途上国は便宜置籍国として利用されたが、今はメタナショナルは資産を発展途上国に移して国家を牛耳っている。

プラクシスは火星で起きることがやがて地球にも影響すると考えている。
そこに入っていない国々と協力して先進的な要素を探し出したい。

スイス人たちが用意したプログラムは終了し3日間に休憩をし、全体会議を開催する。
一同はアート、ニルガルの「ドルサ・プレヴィア宣言」の草稿(詳細は下記メモ)を不承不承、受け入れる。
レッズは第6項の低高度の惑星緑化に反対。つまりドーム、テント生活でよしとする。
また革命の手段についても意見が分かれた。

ヒロコのたちの踊り行列のパフォーマンスで会合は幕を閉じる。

【第八部 社会工学】

サックス。

ウォーレス・クレーター。

拷問で言語障害を起こすがヴラド、ウルジラの治療を受け、ミシェルが心理学と科学を対比させたりして話し相手になり回復を支援する。

サックスはピーターに宙航機(スペースプレーン)に乗せてもらい、高度250km上空にある空中レンズ(直径1000km)を破壊する。

サックスは惑星緑化計画をもっと緩やかなものにすべきと考えを改めて始め(エコポエシス)、空中レンズは邪魔だった。

サックスはアンに「ぼくは間違っていた。君が必要だ、次の長寿処置を受けろ」と言う。

サックスは次にピーター、ジャッキ・ブーン、ボグダヴィストの技術者らとデイモスに行きロケットを設置し、火星軌道から離す。

2061年の革命のときにフォボスがトランスナショナル側のミサイル基地に使われたためだった。

そして火星上の赤道サイロやモホールに、地対宇宙ミサイルを用意する。

【第九部 もののほずみ】

ニルガル峡谷の新しいテント『セパラシオン・ド・ラトマスフェール』。

最大級のメゾコスモス用換気装置、数台を設置。

家畜以外にコヨーテ、赤大山猫、鷹も放った。

ニルガルが演説中に嵐が来てテントに雪が積もり始めたので、みんなで雪下ろし作業。

マヤ・カタリナ・トイトヴナ。

明日香。

外見はもう立派なおばあちゃん。

そこにサックス、ヴラド、ウルジラ、マリーナも集まる。

ワンダフル社とアメックス社が暫定統治機構の兵員数を増加させていた。

クリスティアナポリスを接收して作戦基地にした。

一方、コヨーテ、カセイ、ハルマキスがマーズファーストのゲリラたち率いて、敵が隠れ里を見つけるようなら攻撃を仕掛ける手筈になっていた。

マヤたちはボグダヴィストたちを味方にして全面戦争よりもクーデターにしたかった。

ゲリラを止める手立てが必要だった。

ナディアとアートはサウス・フォッサ。

5人は主要都市の住民の抵抗運動を統率することにする。

サックスはバロウズに向かうという。

しかしマヤは4人からフランクがジョンを殺したと聞き、狼狽える。

そして髪を短く切り、ミシェルといっしょにヘラス盆地に向かう。

機関車では偶然スペンサーといっしょになり、ふたりでヘラスのアジトに入る。

マヤはダイアナの案内でヘラス盆地の水の汲み上げ作業の様子、ヘルズ・ゲートそばの高さ600mの塔と長さ10kmの大橋を見て、旅を続けておるニルガルとも会う。

さらに革命派の面々とも会う。

マーズ・ファースト、レッズ。

コヨーテとカセイたちはカセイ峡谷のコロリョフ治安部隊を襲おうと計画していた。

マヤはアートに説得して止めるように言う。

一方地球では、コンソリデイティッド社がコロンビアに地球用軌道エレベーターを下ろそうとしていた。

プラクシスはエクアドルを使おうとしていたので、国際司法裁判所に訴え、裁判所はプレクシスに有利な判決を下すもコンソリデイティッド社は無視していた。

マヤは老ゼイクからブーン殺害事件のことを聞く。

直接の犯人セリフとその仲間2人は事件後すぐ相次いで死んでいた。

火星紀元48年秋。

飛行船スリー・ダイヤモンド号でオデッサ→マイナス・ワン・アイランドへ。

マヤ、ダイアナ、レイチェル、フランツ、ヘラス盆地中央部の居留地『マイナス・ワン・アイランド』に行く。ゼア・ドルサが完全に水没すれば島になる予定。

明日香からヴィシュアニクへ行く途中のサックスもミシェル、スペンサーに会いに来て同行。

2,3ヶ月後、マイナス・ワン・アイランドは周囲が海になって島になる。

ボレアリス平原に水を引き込み海にする大規模工事も進行していた。

イシディスを囲む高山地帯の帯水層から水を注入していて、バロウズの周りには高さ200メートル、幅300メートルの堤防が築かれていた。

地球では長寿処置を受けられない人たちが、処置を受けた人のこもる大都市の要塞に放火、破壊活動を繰り返していた。

要塞は火星のテント・タウンと同じく、テレリンク、遠隔操作、携帯用発電機、食料生産用温室、空気濾過装置が備えていた。

地球では処置を受けた人は10%なのか40%なのか不明だった。

国際司法裁判所は、ハーグからベルンへ移転のため活動を休止していた。

コンソリデイトッド社がパキスタンのカシミールにあるプラクシスの子会社に買収をかけたりに対立していた。

プラクシスと取引しているインドはパキスタンと対立。

グループ11(旧G7プラス韓国、アザニア、メキシコ、ロシア)は依然として、地球権力の大半を軍事力と資本の名目上握っていた。

しかし生き残れるのは1ダースほどと考えられるメタナショナルは小さな国を飲みこみ、買収競争している。

アームスコーとワンダフルはナイジェリアでの抗争に生物兵器を使用。

火星紀元49年夕方。

両者、全世界で深刻な経済戦争を展開。

大手メタナショナルは国連を復活させて国際司法裁判所に対抗するものにしようと画策。

火星プロメテウス発見されて閉鎖。

ヴィシュアニクはまだ発見されていない。

暫定統治機構警察は火星の南半球にも侵入を開始、突如、明日香を包囲するが、マリーナたちは脱出してオデッサに駆け付けて急を知らせる。ヒロコたちは不明。

・現時点の登場人物の居場所

オデッサ:マヤ、ミシェル、スペンサー、アート、ジャッキ、カセイ、アンタル、ハルマキス、老ゼイク、のちマリーナ、ウルズラ、ヴラド合流。さらにイエーリ・ジュードフ、メアリ・ダンケルも明日香を脱出して合流。

明日香:ヒロコ、七生、悦、コヨーテ(脱出後、潜伏)

サウス・フォッサ:ナディア

アウレウム・カオス:アン

ヴィシュアニク:サックス

マヤ、ミシェルはコヨーテの案内でヘレスポントス、ノアキス高地帯、シェフィールド・バロウズの走路を抜けて洞窟アジトに行き、中山に会ってヒロコを訊くが不明。

バロウズのボグダノヴィストのアジトに戻る。

ヴラド、ウルズラ、マリーナはアケロン(かつての彼らの研究所をプレクシスのバイオ・エンジニア会社が後援)、サックスは惑星緑化チームといっしょにダ・ヴィンチ・クレーターの隠れ家にいた。

協力するミノア人は、ステルス・フライヤー、地対地ミサイル、強化ブロック・シェルター、空対地ミサイル、対戦車兵器、携帯用銃器、サックス考案の生態学的兵器を開発していた。

マヤはサックスが大胆な行動を起こさないように宥める。

サックスはマヤに12ヶ月待ってくれ、と言う。

地球ではメタナショナル皆殺し(メタナトリサイド)と呼ばれつつあった。

ワンダフルは三菱と仇敵アームスコアを乗っ取り、アメックスと争っていた。

アメックスは合衆国をG11から引き離そうとしていた。

・火星の代表的な思想活動団体。

自由火星党(ジプシー的政府):ニルガル、スーフィ。グリーン、穏健・非暴力・中央統率。

レッズ:アン

マーズ・ファースト:カセイ。過激。無秩序。

ブーン主義:ジャッキ。過激。無秩序。

ボグダノヴィスト:ミハイル

アラブ過激派:アンタル

エコ経済学:マリーナ

火星浄福:ヒロコ

スイス人:全体会議の主催者。

明日香偵察から帰ったマヤはまたフランクの歴史、2061年の革命について調べる。

2050年代には火星にすでに100万人以上がいた。

革命はアルカディイに統一されていたかに見えたが、コロリョフのオスカー・シュネリングやエリシウム解放運動のようなレッズ運動、数百の単位で地下に潜った人たちの影響も受けた。

フランクが暴動の勃発を止められなかったのは、それに気付けなかったのが理由。

フランクは書物の上で消されていた。

アート「若者たちの活動では異性とのつながりへの期待もある」という。

マヤ、呆れる。

ワンダフル、宇宙エレベーターを掌握。

クラーク(衛星)、シェフィールド(エレベーター下部のソケット)、タルシスの支配権を握る。

マーズ・ファースト、襲撃するも多数の死者を出して撤退。

中山七生。火星の酸素濃度が増大していた。

以前サックスが散布した植物(炭素固定バクテリア?)で自殺遺伝子を持たないものが増えているためか?

火星紀元52年、西暦2127年の朝。

バロウズ。

マヤの部屋にジャッキィ、アンタル、アート、ニルガル、レイチェル、フランツたちが集まる。
アートにプレクシスから連絡が入る。

「引き金だ」

「デモは中止して、革命を始める。」

【第十部 移送転移】

地球。フォート。

西南極大陸の氷床が溶けて、海面の上昇が6メートルに及び高潮のように各地を襲うことが分かる。
。

ダ・ヴィンチの隠れ家にいたサックスはナディアから話を聞くと監視衛星への攻撃を開始することを告げる。

ナディアが第二革命開始の合図を告げる。

火星紀元52年第二文月二日 Ls101、西暦2127年10月12日の朝。

サックスは火星の活動家たちを逮捕し拷問をかけたカセイ峡谷を焼く。

明日香は南方から戻った暫定統治機構の治安部隊に攻撃され炎上する。

ナディアとサックス、アートはサウス・フォッサへ移動。

バロウズにはマヤ、ニルガル、ジャッキィたちと20万の住民がいて、暫定統治機構の治安部隊5千人を率いるヘイスティングスが環境プラント(テント内の環境をコントロールする)に立てこもって住民を監視していた。

また地球からは暫定統治機構警察を応援する大部隊も火星に到着しようとしていた。

アンタル、ニルガルの火星独立演説に続いて、マヤが「火星独立は国際司法裁判所にも提起していて、スイス、中国、インド、プレクシスの支援受けている。暫定統治機構の治安部隊は従わないものは宇宙港から帰る」ように言う。

一方でレッズは堤防を占拠しヘイスティングスに堤防を破壊してバロウズを水没させる、と脅迫していたが、ヘイスティングスは20万人の住民を犠牲にするはずはないと踏んでいた。

サックスはロケットを飛ばして爆発させ、暫定統治機構警察が突入して来る経路に金属を巻き、ロケットの着陸を妨害。ロケットが太陽系外方向に逸れていく。

ピーターはシェフィールドのソケットに攻撃を仕掛ける。

ナディアにアンの説得(レッズに堤防を決壊させないこと、ヘイスティングスたちが撤退しやすいように宇宙港を攻撃しないこと)を頼む。

ヘイスティングスら治安部隊は堤防のレッズを攻撃し、レッズは堤防に穴を空けてついに洪水が

バロウズに迫る。

サックスは火星大気の酸素濃度は今では40%なので、マスクで二酸化炭素を吸収すれば外を歩けるといい、列車、飛行船、徒歩で20万人の住民を避難させようという。

ナディアたちはバロウズを出て73km離れたリビア駅まで歩き通す。

治安部隊は宇宙港から航空機で飛び立って行く。

地球では海面が四メートル上昇、クライアント国がメタナショナルの資産を国有化したり、国連総会がメキシコ・シティで開催され、国際司法裁判所が仲介してメタナショナル同士の戦いは停戦。

プラクシスは洪水被害対策に資産を投入。

インドは火星の独立政府と条約を締結していることを認めた。

ヒロコたちは、ヒランヤガルバ(黄金の胚)で目撃されていて無事の可能性。

ヘラス盆地に続き、ポリアレス平原もイシディス平原も海になった。

一同は同じ列車に乗った。

コヨーテ「奴ら(地球)はまた来る」

サックス「地球が安定するまで我々が危機状態を脱することはない」

マヤ「地球を安定させるのは我々だ」

<メモ>

スーフィの信仰は、イスラムが遭遇した古い宗教や、バハイ教のような新しい宗教からも要素の一部を取り入れている。

エコポエシス:環境詩学

「極小政治」(マイクロ・ポリティクス)

「十億分の一(ナノ)」

「一兆分の一(ピコ)」

「千兆分の一(フェムト)」

『ドルサ・プレヴィア』構造

トンネル:高さ200メートル、幅300メートル、長さ40km。

長さ1kmごとに分けてテント地で隔壁を作って、全体で12kmほどを密閉して気温と気圧を保って

いる。

住民数:4000人。

最大の公園:1000人が集まって食事会が出来る。

公園:ザクロス、グルニア、ラト、マリア

ファラサルナ(散歩)、ファイストス(パーティ、中央は浅い池)、ミノア人に掘った円形劇場。

クノッソスの山脚。

運河。

ウィリアム・フォート

「資本主義は成長があって初めてうまくゆく。しかしもはや成長は成長ではない。我々は内に向かって成長する。もう一度絡み合う必要がある」

『ドルサ・プレヴィア宣言』

1.火星の社会は多数の異なる文化から成り立つことになる。

一つの国というよりは世界と考えた方が適当である。

"信仰と文化慣習の自由は保障"されなければならない。

いかなる文化集団も他の文化ないし文化集団を圧倒できないようにすべきである。

2.この多様性を枠組みとして、しかもなお火星上のすべての"個人は何人も奪うことのできない一定の権利を有する"。

それには生存のための物質的基盤、医療保健制度、教育、法的な平等に関するものが含まれる。

3."火星の土地、空気、水は種としての人類が共同して管理"するものであり、いかなる個人または集団もこれを私有することはできない。

4."個人の労働の成果はその個人に属し"、当人以外の個人または集団が正当な権利なしに私用に供することはできない。

同時に火星上での人間の労働は全国民が参加する事業の一部であり、"公共の利益をめざす"。

火星の経済システムはこうした実情を反映するものであると同時に、個人の利益と社会全体の利益バランスをとるものでなければならない。

5.地球を支配しているメタナショナル体制は、前項の二つの原則を具体化することが現状ではできていないので、ここには適応できない。

その代わりとして、"われわれはエコロジー科学に基づく経済体制を定める"必要がある。

"火星経済の目標は『持続的な成長』ではなく、その生命圏全体の持続的な繁栄"である。

6.火星の景観自体もまた特定の『土地の権利』を持ち、これは尊重しなければならない。

われわれの環境変数の目的は、したがって火星浄福(アレオファニー)の価値観を反映し、最低限で環境詩学的であるべきである。

環境変更の目的は火星表面のうち、"高さ4キロの等高線より低い部分人間が住めるようにするまでに限定する"ことを提案する。

それより高度が高い部分、惑星表面の約3割を占める部分は太古の条件に近い状態のまま残され、

手付かずの自然として存続することになる。

7.火星への居住過程は歴史上類例のないものである。

人類が他の惑星に住み着くのは初めてのことだからだ。

したがって、それ自体この惑星に敬意を表し、宇宙における生命のあまりに少ないことをきちんと考慮に入れておこなわれるべきである。

われわれがここでおこなうことは、これから太陽系に人類が進出する魁となるものであり、地球環境と人類の関係の手本となることにもなるだろう。

したがって火星は歴史の上で特殊な地位を占めるのであり、生命に関して必要な決定をここでする際、そのことを肝に銘じておくべきである。

『モノコーソタクソフィリア』ペッセル。

心理学では知らないことを恐れるあまり、何もかも知らなければいられるなくなるという、科学的に特定された病理があると考えている。

あらゆることを説明する単一理由への愛という意味だ。

この病気はまた理由がないことを恐れるようになることもある。

理由がないことを恐れるようになることもある。

理由がないことは危険かもしれないから。

知識の探求は元来、防衛的なものになる。

そこでは、その人間が本当に怖くなっているときに恐怖を排斥する一つの方法なんだね。

ひどくなると、それはもう知識探求ですらなくなる。

解答が得られたときには、それはもはや危険ではなくなってしまい、興味の対象から外れてしまうからだ。

だから、そういう人間にとっては現実そのものがどうでもよくなる。

『ガリバー旅行記』

ガリバー旅行記の中で、スイフトは衛星の惑星からの距離と周回時間を書いていて、そんなにトンチンカンな数字じゃなかった。

当時有名だったケプラーの第3法則に基づいて、ガリバー旅行記の著者スウィフトやボルテールが火星の衛星は2つと書いた。

スティショバイト:二酸化ケイ素。石英。

コロラチュラ:イタリア-オペラで発達した細く技巧的な旋律。

モカシン:アメリカ先住民が履いていた皮を縫って作ったシューズ。

エコタージュ:ecotage.環境保護を極端な方法で行うこと。

教条主義:原理主義者(原理原則を重視するあまり現実を無視する輩)を批判することば。

冷笑主義Cynicismは伝染する。

コーニッシュ: Cornish. 円錐形。

氷丘脈(プレジャ・リッジ)

セラック

マイナス・ワン・アイランド: ヘラス盆地中央の？居留地。

自動パイプライン: ヘラス盆地に帯水層から引いた水を散布するために作られた装置。スイス人が作った。

ゲシュタルト的。

ゲシュタルト崩壊（ゲシュタルトほうかい、独: Gestaltzerfall）とは、知覚における現象のひとつ。全体性を持ったまとまりのある構造（Gestalt, 形態）から全体性が失われ、個々の構成部分にバラバラに切り離して認識し直されてしまう現象をいう。

例えば同じ漢字を長時間注視しているとその漢字の各部分がバラバラに見え、その漢字が何という文字であったかわからなくなる現象。

ロバート・ズ布林『マーズ・ダイレクト』—ノンフィクション。